

父野川水銀鉱山跡



◀水銀掘削のために掘られた鉱山跡。この場所からは水銀がほとんど出なかったのではと推測されている

「辰砂」と呼ばれる鉱石から採取される水銀。その辰砂が、ここ父野川で発見されたのは「大化の改新（645年）」当時にさかのぼると言われています。

全国的に有名な鉱山に

明治27年、大阪の藤田組により「父野川鉱山」と称して本格操業を開始した本

鉱山。多くの人が従業員として訪れ、中には住み込みで働く人もいたと言います。地域住民の中にも現場で働く人がおり、女性は選別作業に、そして男性は鉱山の中へ入り、掘削作業に従事していました。

ガスランプを付けて、人力により1日に何度も鉱内を行き来するトロッコ。何カ月かに一度、水銀が含まれた赤い鉱石を乗せて山を下りていくトラック。また、掘削にはダイナマイトが使用され、「掘削作業をする人は命がけだった」と当時を知る人は話します。日々行われた掘削作業。その深さは、地元の人いわく「藤川のお宮の付近まで」と推測されています。

また、左右のどぶ溜りには生水銀が溜り、黒い椀子を使って少しずつ集め、一升瓶に入れて、本社に送っていたそうです。

当時、愛媛県内でも水銀鉱山は珍しく、本鉱山は全

国的にも有名な鉱山として知られるようになりました。

立ち込める暗雲

湧水の影響のため、明治42年、一時休山となった本鉱山。その後、採掘権者の交代を経て改めて操業が行われましたが、徐々に鉱脈

が少なくなり、昭和27年、今後の見通しが経たないとの理由で、ついに完全休山となりました。

大規模とは言えないまでも、地域の人たちにとって生活の支えとなった水銀鉱山。かつてこの地を賑わした風景は、今も地域の人たちの心の中に残っています。



当時を知る人

山崎 武雄さん

やまざき たけお

= 父野川中 =

当時、父が水銀鉱山で働いており、掘削するためのダイナマイトの係を担当していた。幼い頃、作業場に行ってはトロッコレールに耳を当て、中の作業音を聞いていたそう。また、山崎さん自身も鉱内に入った経験があり、泥水の中から生水銀を採取した思い出があるという。